

# 茨城県 いばらき農流研

## JGAP青果物・穀物



## OGAP手法取組の概要

グループに所属する全40農場において、2006年春から指導を受け導入開始。同年夏～秋に全農場が、JGAPの外部審査を受け認証を取得。翌年からの審査は複数の農場がまとまり(団体)、団体全体で審査を受ける団体審査へ移行。(8月に青果物・穀物ともに団体認証)を取得。

(品目)

にら・小松菜・水菜・ほうれん草・チンゲンサイ・  
長ねぎ・さつまいも・じゃがいも・ごぼう・大根・  
にんじん・しいたけ・ブルーベリー・パプリカ・トマト  
ほか

## OGAP手法導入のきっかけ、経緯

グループで農産物の安全性を高めるため、統一的な農場管理手法として導入。

## OGAP手法導入に関し、工夫した点等

導入前に目的と意義を共有し、形式的ではなく実効性の高いGAP手法の指導を受けてから導入。

## OGAP手法導入によるプラスの効果等

- ・商品の差別化が図られ、新たな販売先が開拓できた。
- ・グループ全体の、品質基準の基礎が作れた。
- ・農場従業員の作業が標準化され、効率化が図られた。

## ○実践者からのコメント

- ・工程管理で要所を押さえている自信がついたため、クレーム発生への不安が減り、安心して出荷できるようになりました。
- ・改善することはいくつもあり、大変ではあるが、目的を持つこととやる気があれば難しくはありません。
- ・安全な農産物を生産することは当たり前のことですが、自分だけで実現するのは難しい。JGAPはポイントが整理されているので活用がしやすい。

